

令和5年度（2023年度）

市政方針



苫小牧市長

岩倉 博文

令和5年度 (2023年度) 市政方針 目次

1	はじめに		
(1)	市政への想い	3	
(2)	時代認識	4	
(3)	まちづくりの姿勢	5	
2	政策における共通理念		
(1)	人が集まる魅力の創造	6	
(2)	ゼロカーボンシティへの挑戦	7	
(3)	産業都市としてのさらなる飛躍	7	
3	基本政策		
(1)	市民によるまちづくりの推進	9	
(2)	健全な行財政運営の推進	10	
4	主要施策		
(1)	共に支え合い健やかに暮らすまち		
	保健予防対策の充実	12	
	医療体制の整備・充実	12	
	地域福祉の推進	12	
	高齢者福祉の推進	12	
	障がい者福祉の推進	13	
	子育て支援の充実	13	
(2)	明日を拓く力みなぎる産業のまち		
	工業の振興	14	
	商業の振興	14	
	企業立地の促進	15	
	農業の振興	15	
	水産業の振興	16	
	林業の振興	16	
	観光の振興	16	
	雇用・労働環境の整備・充実	16	
	新千歳空港の拠点形成強化と 周辺環境対策の推進	17	
	港湾整備	17	
	苫東開発の推進	18	
	(3)学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち		
	教育行政	18	
	北洋大学	18	
	市民スポーツの推進	19	
	市民文化ホール	19	
	国際・国内交流の推進	19	
	(4)自然と環境にやさしいまち		
	ゼロカーボン	20	
	自然環境の保全	20	
	公害の防止	21	
	生活衛生の充実	21	
	ごみの減量とリサイクルの推進	21	
	(5)安全・安心で快適に暮らすまち		
	まちなかの活性化	22	
	居住環境の充実	22	
	上下水道の整備・健全な維持管理	23	
	道路の整備	23	
	公共交通の充実	23	
	消防・救急体制の充実	24	
	防災体制の充実	24	
	交通安全の推進	24	
	防犯対策の推進	25	
	消費生活の安定	25	
5	予算編成		26
6	むすび		27

1 はじめに

(1) 市政への思い

市民の皆様から5期目の市政運営を任されて、7か月が経過しました。生まれ育った苫小牧のため、誠心誠意、汗を流すことを改めて心に誓い、スタートを切っています。

市長就任当初から財政健全化を政策の一丁目一番地と位置付け、行政改革に取り組んだ結果、一時期の危機的な状況を脱することができました。一方で、人口減少時代に突入し、生産年齢人口の減少に伴う財政への影響は避けられない状況にあります。今後は新たな視点を取り入れた創造的な市政運営に努めるとともに、税収減を前提とした持続可能な財政運営を進め、財政基盤の更なる強化を図ってまいります。

私にとって集大成となる5期目は、旧サンプラザビルを含む苫小牧駅前再開発の問題など、積み残してきた課題の解決に臨み、ゼロカーボンをはじめ近未来に向けた道筋をつけてまいります。

令和5年度は市制施行75周年の節目の年に当たります。困難な課題にも勇気を持ってチャレンジし、市民の皆様とともに、苫小牧の歴史に力強い新たな一歩を刻んでまいります。

(2) 時代認識

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に加え、ロシアによるウクライナ侵攻や、物価高騰による市民生活への影響など、国内外の社会経済情勢が大きく変化しており、市政においても時代の潮流をいち早く捉えた対応が求められています。

新型コロナウイルス感染症への今後の対応につきましては、政府の方針や新たな変異株出現の状況を注視しつつ、“日常の回復と変革への挑戦”をテーマに、アフターコロナを見据えた施策展開に努めてまいります。

また、政府はデジタル田園都市国家構想を掲げ、地域が抱える人口減少、高齢化、産業空洞化などの課題に対し、デジタル技術の活用により解決することを推進しています。本市においても、市民サービスの向上や行政手続の効率化に取り組み、誰もがICTを活用できるスマートシティ^{※1}の実現を目指してまいります。

本市は、令和4年の出生数が記録の残る中では初めて千人を下回りました。政府は、“従来とは次元の異なる少子化対策”を掲げ、急激に進む人口減少を食い止める政策の検討を進めており、本市においても、その動向を注視しながら加速する少子化に対応してまいります。

※1 デジタル技術の活用により諸課題を解決し、新たな価値を創出し続ける持続可能な都市や地域のこと

(3) まちづくりの姿勢

令和5年度は、本市の最上位計画に当たる「苫小牧市総合計画第7次基本計画」の運用を開始します。人口減少、少子高齢化が進む中においても、理想の都市として掲げる人間環境都市の実現を目指し、全庁を挙げて取組を進めてまいります。

また、同じく運用が開始となる「苫小牧市立地適正化計画」に基づきコンパクトなまちづくりを進めるとともに、改定した「第2期苫小牧市総合戦略」に掲げる各種の取組を着実に実施することにより持続可能な都市を目指してまいります。

さらに、本市は、成長戦略として、“ものづくり産業のさらなる展開”、“臨海ゾーンにおけるロジスティクスの展開”、“臨空ゾーンにおける国際リゾートの展開”を掲げており、今後も立ち止まることなくチャレンジを続けてまいります。

特に今年は、苫小牧港の開港から60周年を迎えます。昭和38年（1963年）の第1船入港から、現在では北日本最大の港湾として北海道経済、日本経済にとって重要な役割を担うまでに発展しています。時代の要請を踏まえたカーボンニュートラルポート^{※2}への対応など、新たな方向性に基づき、苫小牧港の更なる成長と発展を目指してまいります。

※2 港湾地域内や出入する船舶・車両から排出される温室効果ガスをゼロにする港のこと

2 政策における共通理念

近年の急激な社会経済情勢の変化により、行政運営においても複数の分野からのアプローチが必要となる課題が顕在化しています。近未来につながるまちづくりを進める上で強調すべき視点を“政策における共通理念”と位置付け、“人が集まる魅力の創造”、“ゼロカーボンシティへの挑戦”、“産業都市としてのさらなる飛躍”の3つを掲げます。今後、あらゆる政策を実行に移す上で、これらを強く意識して取り組んでまいります。

(1) 人が集まる魅力の創造

増加を続けてきた本市の人口は、平成26年(2014年)から減少に転じ、令和3年(2021年)には17万人を下回りました。まちに人を呼び込み、定着させるためには、分野を問わずあらゆる面で魅力的なまちである必要があります。

まちの魅力の創造に向けては、「苫小牧駅周辺ビジョン」の運用により、「苫小牧都市再生コンセプトプラン」の具現化に努めるとともに、大規模自然災害への対応として事前防災・減災の視点から平時の備えを強化するほか、デジタル技術の活用による「苫小牧市スマートシティ構想」の実現を目指すなど、安全・安心な都市機能の整備を進めてまい

ります。

また、“子育て世代に手厚いまちとまこまい”の実現に向けて、家庭の負担軽減に取り組むなど、市民の皆様の生活環境の充実に努め、“人が集まる魅力の創造”を図ってまいります。

(2) ゼロカーボンシティへの挑戦

本市は令和3年(2021年)に“ゼロカーボンシティへの挑戦”を宣言しており、実現に向けては、産業部門、家庭・業務部門、運輸部門、それぞれの立場から積極的な取組が必要となります。

令和5年度から2か年に渡り“CO₂CO₂(コツコツ)いこう♪次世代のために”をスローガンに「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦!」を実施し、まちを挙げて取り組む機運を醸成してまいります。

また、環境に配慮した再生可能エネルギー導入がスムーズに進むよう関係者や事業者との連携を図り、“ゼロカーボンシティへの挑戦”を加速してまいります。

(3) 産業都市としてのさらなる飛躍

本市は、産業都市として発展し、現在では産業・物流の拠点として北海道経済をけん引する役割を担っています。未来に向けたまちづくりを進める上で、“産業都市としてのさらなる飛躍”は不可欠な要素とな

ります。

ゼロカーボンやDX（デジタルトランスフォーメーション）※3に向けた企業の動きなど、時代の潮流を踏まえた企業誘致に取り組むほか、立地企業が抱える課題を把握し、必要なサポートを行うことで、産業競争力の強化と安定した雇用の確保を図ってまいります。

また、ICT化の進展により新しい働き方が広がりを見せており、ワーケーションの受入れなど、本市の特性や優位性を生かした取組を行うことで、“産業都市としてのさらなる飛躍”を目指してまいります。

※3 ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

3 基本政策

(1) 市民によるまちづくりの推進

地域活動の促進につきましては、まちづくりの重要なパートナーである町内会との意見交換を継続し、より緊密な関係を構築してまいります。

また、町内会の負担軽減につながる地域活動のデジタル化推進のほか、企業や不動産関連団体に対して加入率向上に向けた働きかけを実施し、コロナ禍前の町内会活動を取り戻してまいります。

市民自治の推進につきましては、市民であることが誇りに思えるまちを築くという理念のもと、市民、企業、団体など多様な主体と連携し、協働のまちづくりを進めるとともに、まちかどミーティングをはじめとする広聴事業を通じて情報共有を図りながら、市民の声をまちづくりに生かしてまいります。

男女平等参画の推進につきましては、「苫小牧市男女平等参画都市宣言」の10周年を記念した事業を実施してまいります。

また、新たにスタートした多様な性を尊重するパートナーシップ制度の周知に加え、配偶者暴力相談支援センターの相談環境の充実を図るなど、困難や不安を抱える女性への支援を通し、男女平等参画社会の実現を目指してまいります。

平和の推進につきましては、ロシアがウクライナに侵攻し、核兵器の使用を示唆するなど、今なお、世界の平和を脅かす事態が続いています。

「苫小牧市非核平和都市条例」のもと、平和事業を継続し、戦争を知らない世代にその悲惨さや平和の尊さを伝えてまいります。

(2) 健全な行財政運営の推進

行政組織の活性化につきましては、適宜、組織機構を見直すとともに、定年の引上げを踏まえた適正な定員管理を行い、限りある人的資源を有効に配置することで、組織全体が互いに連携し合う体制を構築し、新たな行政課題に対応してまいります。

また、自立型人材の育成を継続して推し進めるとともに、新たな人事評価制度及び人事管理手法を検討してまいります。

さらに、働き方改革と健康経営を一体的に推進し、職員一人ひとりが心身ともに健康で個性や能力を最大限に発揮できるウェルビーイング経営^{※4}を目指してまいります。

行政改革につきましては、改定した「苫小牧市行政創革プラン」のもと、民間活力の活用やICTの活用による市民サービスの向上・業務効率化など、従来の概念にとらわれない新たな発想や手法を用いた積極的な取組により、更なる市民サービスの進化と行政費用の抑制を図ってまいります。

※4 身体的、精神的、社会的にも良好な状態にあることを意味する概念で、職員が心身ともに健康で個性や能力を最大限に発揮し、いきいきと働くことで充実感や幸福感を得られる職場環境の実現を目指した組織運営のこと

財政運営につきましては、人口減少や少子高齢化の課題に、新型コロナウイルス感染症や物価高騰など先行きが不透明な要因が加わり、厳しい財政状況が見込まれています。新たに策定した「財政運営持続化計画」で定める財政秩序のもと、持続可能で安定した財政運営に努め、ゼロカーボンをはじめとした様々な行政課題や市民サービスに応えてまいります。

広域連携の推進につきましては、東胆振4町と締結している定住自立圏形成協定のもと、圏域としての生活機能の維持・発展に向け、更なる業務の広域化や共同化の可能性を協議してまいります。

4 主要施策

(1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

保健予防対策の充実につきましては、国民健康保険におけるがん検診無料事業を拡充し、新たに子宮頸がん・乳がん検診を追加することにより受診率向上を図るほか、第3次健康増進計画を策定し、アフターコロナを見据えた“こころの健康づくり”を進め、健康寿命の延伸に努めてまいります。

医療体制の整備・充実につきましては、新たに市立病院経営強化プランを策定し、周産期、救急医療及び新興感染症への対応など東胆振・日高圏域の中核病院として必要な医療機能を堅持してまいります。

また、病室も含めた院内Wi-Fi利用エリアを拡大し、快適な入院環境を提供するほか、院内のICT化を推進してまいります。

地域福祉の推進につきましては、重層的支援体制の整備に向け、研修や関係機関との協議を進め、地域住民が抱える課題に対応するほか、成年後見制度における受任体制の整備拡充を図ってまいります。

高齢者福祉の推進につきましては、「苫小牧市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」に基づき、苫小牧版地域包括ケアシステムの深化に向けた取組を継続し、住民主体による支え合いの活動を促進し

てまいります。

また、社会福祉協議会や電気通信事業者と連携したスマートフォン講座を開催するなど、誰もが安心して生活できる環境を整えてまいります。

さらに、介護人材の就業支援や介護ロボット・ICTの活用、外国人介護人材の受入れなどの取組を多角的に進めることにより、介護人材の確保・定着に努めてまいります。

障がい者福祉の推進につきましては、あいサポート運動や手話に関する周知・啓発を継続するとともに、夏に予定されている“いけませ夏フェス”への協力を通じて、障がいの有無にかかわらず、互いに支え合い、誰もが暮らしやすい地域社会の実現を目指してまいります。

子育て支援の充実につきましては、認定こども園及び小規模保育施設整備による3歳未満児の受け皿の更なる拡大や、市立みその保育園において、病後児保育を開始するとともに、学校内等放課後児童クラブを民間委託し、事業者による独自サービスの導入など利便性の向上を図ってまいります。

また、最新のデータを活用したシミュレーションに基づき、医療費助成制度の在り方の検討を進めるほか、不妊検査費用の一部助成を拡充することにより、早期の不妊治療開始につなげるとともに、国が定めた

保険適用範囲に応じ、安心して不育症検査・治療を受けられる環境を整備してまいります。

さらに、子育て世代包括支援センターを核とした伴走型相談支援の充実を図るとともに、出産前後に要する費用の経済的支援を実施し、子育て世代をサポートしてまいります。

児童虐待の未然防止においては、室蘭児童相談所苫小牧分室と緊密に連携し、複雑化する相談に適切な対応を図るほか、過度なケア負担を抱えるヤングケアラーの支援に向けては、社会全体で支えるために条例制定の検討を進めてまいります。

また、子ども・若者の育成支援においては、福祉・雇用・教育などの分野からなる地域ネットワークを構築し、複雑化・複合化する課題への対応が可能となる重層的な支援体制を整えてまいります。

(2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち

工業の振興につきましては、テクノセンターに導入したX線CT装置や各種分析装置などを活用し、企業における製品の品質向上や高機能化、生産技術の高度化を支援してまいります。

また、産学官金の連携を継続するとともに企業の新技術導入等を支援し、地域産業の振興を図ってまいります。

商業の振興につきましては、中小企業創業サポート事業の拡充によ

り、創業希望者への支援の強化を図ってまいります。

また、とまチョップポイント事業においては、アプリユーザーや加盟店舗の拡大に取り組むとともに、アプリの機能を活用し、地域内での経済循環及び商店街の活性化に努めてまいります。

さらに、「第二次苫小牧市中小企業振興計画」に基づき、創業及び事業承継の推進や人材確保及び人材育成の強化、事業継続のための経営基盤の強化・販路拡大の推進などに取り組み、市内中小・小規模事業者の支援に努めてまいります。

企業立地の促進につきましては、苫小牧港をはじめとする物流面での優位性や、広大な産業用地、冷涼で安定した気候に加え、日本初のCCS実証試験地を有する本市の強みを最大限活用し、ものづくり産業や物流関連産業の更なる集積を図るとともに、ゼロカーボン技術の研究開発や実証プロジェクトの誘致を積極的に推進してまいります。

また、再生可能エネルギーの導入や水素の利活用、CCUS^{※5}などの取組を地元企業と連携して進めることにより、ゼロカーボンシティの実現と地域の産業振興に取り組んでまいります。

農業の振興につきましては、新規就農の負担軽減や就農後の経営安定に向けた支援を行うとともに、農畜産業の競争力強化に引き続き取り組んでまいります。

※5 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略で、分離・回収したCO₂を有効利用する技術のこと

水産業の振興につきましては、水産資源の安定確保を支援するとともに、前浜で水揚げされる海産物の魅力発信に努めてまいります。

林業の振興につきましては、市有林の適正な更新を図るとともに、民間の森林所有者が本市に経営管理を委ねる意向にあわせて、森林経営管理法に基づく経営管理権集積計画を策定するなど、森林の適正な管理に向けた取組を推進し、二酸化炭素の吸収をはじめとした森林が持つ多面的機能を発揮させてまいります。

観光の振興につきましては、観光モデルコースを造成するなど市内周遊を促すとともに、アプリ等を活用した情報発信を行い、アフターコロナに向けた観光誘客を促進してまいります。

また、本市にゆかりのある作品を活用したアニメツーリズム事業を継続し、まちの知名度向上と地域経済の活性化に努めてまいります。

雇用・労働環境の整備・充実につきましては、合同就職説明会などにより地元企業の魅力を発信するとともに、企業の採用力の向上を支援することで、人材確保に努めてまいります。

また、多様化する企業の課題に応じ、専門家によるコンサルティングなどを行い、誰もが働きやすい職場環境づくりを支援してまいります。

さらに、求職者に向けては、企業ニーズに応じたスキルアップを支援するなど、人手不足が深刻な産業をはじめ地元企業の雇用確保に取り

組んでまいります。

公共工事の発注においては、週休2日制工事の本格導入に向けた検証を行うほか、早期発注による施工時期の平準化を継続し、受注者の働き方改革や職場環境の改善、人手不足への対応に努めてまいります。

新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進につきましては、道内外からの誘客促進や二次交通の利便性向上など、新千歳空港の利用促進につながる取組を行い、航空需要の更なる回復に努めてまいります。

また、24時間運用拡大に伴う住宅防音対策や地域振興対策を着実に進めるほか、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転においては、市民の安全・安心に万全を期すとともに、再編関連訓練移転等交付金を活用し、航路下地域の環境整備や市民生活の利便性向上を図ってまいります。

さらに、臨空ゾーンにおける統合型リゾート（IR）を含めた国際リゾート構想は、人口減少時代において、雇用の創出や地域経済活性化に大きく寄与するものであり、北海道が予定している“北海道らしいIR”のコンセプト策定に向けて協力しながら、引き続き誘致にチャレンジしてまいります。

港湾整備につきましては、令和5年度から供用開始となる苫小牧港西港区中央北ふ頭の背後ヤードの整備を進め、バース不足による混雑

緩和や滞船等の解消に合わせた荷役の効率化を図ってまいります。

また、東港区の周文ふ頭においては、複合一貫輸送ターミナル整備事業を進め、道産農水産品などの貨物需要に対応するとともに、大規模自然災害などに備えた耐震・防災機能を強化してまいります。

さらに、新たに策定した「苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画」の実効性を高める体制を整え、官民連携して計画を推進し、環境に配慮した新たな産業の創出、誘致へとつなげ、荷主や船会社から選ばれるよう港湾競争力を強化してまいります。

苫東開発の推進につきましては、豊富な再生可能エネルギーや優れた交通アクセスなど、立地優位性を生かした企業誘致活動のほか、データセンターをはじめとした情報関連産業、水素やCCUSを含むゼロカーボン関連産業等の新たなプロジェクト誘致に取り組んでまいります。

(3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

教育行政につきましては、「苫小牧市教育大綱」の基本理念に掲げる“未来の社会をつくるひとづくり”を目指し、「教育行政執行方針」のもと各種施策に取り組んでまいります。

北洋大学につきましては、本市職員の配置を継続し、大学側と連携・協力するとともに、定員充足に向けた学生確保の支援を継続してまいります。

また、インターンシップへの支援を実施することで、学生の市内企業の認知度向上と就職の促進に取り組んでまいります。

市民スポーツの推進につきましては、新総合体育館整備計画を策定するとともに、老朽化したスポーツ施設の整備を計画的に進めるなど、安全で充実したスポーツ環境を整えてまいります。

また、市内のスポーツ少年団等の情報を発信することで、子どもたちのスポーツ活動への参加を促し、競技人口の拡大を図ってまいります。

さらに、7月には、全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス競技大会・テニス競技大会）が、令和6年1月には、第78回国民スポーツ大会冬季大会（スケート競技会・アイスホッケー競技会）が開催されます。選手が安心して参加できる大会運営を行い、スポーツを通じた地域の活性化につなげてまいります。

苫小牧市民文化ホールにつきましては、多くの市民に親しまれ、まちのにぎわいの創出及び市民文化の向上に資する施設を目指し、建設工事を進めてまいります。

国際交流の推進につきましては、生活相談や日本語学習などの在住外国人に対する支援の充実を図り、多文化共生指針の策定に向けた準備を進めることで、国籍や文化的背景に関わらず誰もが住みやすいまちづくりを推進してまいります。

また、国内交流の推進につきましては、姉妹都市締結50周年を迎える八王子市との記念事業や、はちとまネットワーク事業に基づく八戸市との連携の継続などにより、交流都市相互の発展につなげてまいります。

(4) 自然と環境にやさしいまち

ゼロカーボンにつきましては、市有施設への太陽光発電設備の設置や照明のLED化を進めるほか、本庁舎駐車場にソーラーカーポートを設置する実証試験を通じて、再エネ電力を活用した電気自動車の普及を図るなど、市が率先して取組を進めてまいります。

また、住宅用ZEH^{※6}補助を開始するとともに、既存の補助対象機器についても内容を拡充してまいります。

さらに、大作戦の各種イベントや出前講座などを通じて、ゼロカーボンの目的や具体的な取組方法などを幅広く発信し、まちぐるみで取り組みやすい環境の整備に努めてまいります。

自然環境の保全につきましては、生物多様性地域戦略の策定に着手するとともに、自然環境保全地区である樽前ガローは、保全を優先しつつ有効に活用する方針のもと、在り方の検討を進めるなど、本市の豊かな生物多様性の保全及び持続可能な利用を図ってまいります。

※6 Net Zero Energy House の略で、省エネルギーと再生可能エネルギー等により、年間一次エネルギー消費量を実質ゼロ以下にする住宅のこと

また、近年、市街地への出没及び被害が増加しているエゾシカへの対策を強化してまいります。

公害の防止につきましては、大気汚染や航空機騒音の常時監視を継続するとともに、公害防止協定に基づく取組やアスベスト対策に係る指導等についても適切に行ってまいります。

生活衛生の充実につきましては、高丘霊葬場の定期的な整備を継続し、安定運用と利用者の安全性・利便性の向上を図るとともに、火葬炉の増炉に向けた実施設計を進めてまいります。

また、近年、苦情・相談が増加傾向にある犬・猫の適正な飼育に関するガイドラインを作成し、トラブルの未然防止等に努めてまいります。

ごみの減量とリサイクルの推進につきましては、新たに高齢者世帯を対象とした戸別収集の拡大を検討し、ふくしのまちづくりにふさわしいごみ収集を実現してまいります。

また、J F E リサイクルプラザ苫小牧においては、設置目的や事業内容を抜本的に見直すなど、令和7年度の指定管理者制度導入に向けた検討を進めてまいります。

(5) 安全・安心で快適に暮らすまち

まちなかの活性化につきましては、「苫小牧駅周辺ビジョン」に示す都市機能の導入に加え、旧サンプラザビルの対応を含めた駅前の再整備に向け、具体的な取組を進めてまいります。

また、本市の魅力や資源を活用した都市再生コンテンツ創出事業を展開し、地域内への誘客及び域内消費の促進を図り、まちのにぎわいを創出してまいります。

さらに、スマートシティの推進においては、医療や交通などの各分野において、官民連携の協議会を中心に、デジタル技術等の活用による地域課題の解決、市民生活の質の向上及び行政手続きの効率化に取り組むとともに、MICE^{※7}誘致に係る事業を実施することで、国内外からの交流人口の増加を目指してまいります。

居住環境の充実につきましては、日新団地における熱供給事業者の事業終了に伴う個別暖房化を完了するとともに、市営住宅の建替えによる管理戸数の適正化や、既存住宅の改修による長寿命化に、引き続き取り組んでまいります。

また、空き家対策においては、空家等実態調査結果を踏まえ、「第2期苫小牧市空家等対策計画」を策定し、空き家の利活用や適正管理を推進してまいります。

※7 企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称のこと

さらに、公園へのインクルーシブ遊具^{※8}導入に向けた検討や、“公園でできること”をよりわかりやすく情報発信するなど、誰もが安全・安心で快適に利用できる公園・緑地の整備を進めるほか、ウトナイ地区の“勇の原公園”の整備に向けて、設計業務に着手してまいります。

上下水道の整備・健全な維持管理につきましては、「苫小牧市水道事業・下水道事業経営戦略」に基づき健全経営に努めるとともに、自然災害への備えとして、重要給水ルート¹の耐震化を進めるほか、雨水管整備や排水ポンプの増強による浸水対策を行ってまいります。

また、老朽化した施設の計画的かつ効率的な改築更新により、安全でおいしい水の供給を維持してまいります。

道路の整備につきましては、未舗装区間における舗装整備をはじめ、老朽化が進む道路の改修や橋りょうの長寿命化対策を計画的かつ効率的に進め、安全・安心な道路交通網の整備と保全に努めてまいります。

また、道路照明灯においては、引き続きLED化への取組を推進し、ゼロカーボンシティの実現と安全で快適な道路環境の確保に努めてまいります。

公共交通の充実につきましては、「苫小牧市地域公共交通計画」に基づき、乗り方教室や待合環境整備などによる利用促進を図るほか、市民意見を踏まえた市内路線バス再編案の策定を進め、持続可能な公共交

※8 障がいの有無に関わらず、一緒に遊ぶことができる遊具のこと

通ネットワークの構築を推進してまいります。

また、とまこまい版MaaS^{※9}構築事業に向けた取組を進め、市民や観光客に対して、利便性と質の高い交通サービスの提供を目指してまいります。

さらに、JR室蘭線・日高線の維持存続に向けて、北海道や沿線自治体などと連携した利用促進実証事業に取り組むなど、地域としての協力・支援を継続してまいります。

消防・救急体制の充実につきましては、老朽化した車両や資器材を更新するとともに、令和8年度に運用開始を予定している東胆振1市4町の消防指令業務共同運用の整備に着手し、強固な消防体制を構築してまいります。

防災体制の充実につきましては、新たな津波浸水想定に対応した津波ハザードマップを全戸配布し、津波発生時の最善の避難行動について意識向上を図るとともに、各種災害のリスクや特性を示し、平時からの備えを集約した防災ハンドブックの見直しに着手してまいります。

また、災害時の支援拠点等の充実に向けて、市民意見を取り入れた防災まちづくり基本構想を策定し、地域防災力の強化を図ってまいります。

交通安全の推進につきましては、「第11次苫小牧市交通安全計画」に基づき、人優先の交通安全思想の醸成に努めてまいります。特に、高齢

※9 Mobility as a Service の略で、自動運転やAIなどのテクノロジーを掛け合わせた、次世代の交通サービスのこと

者や子どもの安全確保に向けた安全教育を強化するとともに、交通安全施設の拡充を目指して取り組んでまいります。

防犯対策の推進につきましては、自主防犯団体の活動を支援することで地域ぐるみの活動を推進するとともに、引き続き地域における防犯の担い手拡大に取り組んでまいります。

消費生活の安定につきましては、「第2次苫小牧市消費者教育推進計画」に基づき、各世代への知識・情報の周知機会を拡充し、消費者教育の一層の浸透を図ってまいります。

また、公設地方卸売市場においては、指定管理者制度による効率的な管理運営を図りながら、安全・安心な生鮮食料品等の安定供給に努めてまいります。

5 予算編成

令和5年度の当初予算は、新型コロナウイルス感染症の状況や物価高騰などの社会経済情勢、市民生活に配慮しつつ、「苫小牧市総合計画第7次基本計画」と「支えあい 助けあう ふくしのまちづくり」に基づく施策に予算を重点化する方針により、主要事業の一般財源は、46億8千万円、早期発注事業として、4億円を計上いたしました。

以上の結果、当初予算は、

一般会計 82,434,000千円

特別会計 34,052,743千円

企業会計 21,948,625千円

合計 138,435,368千円となりました。

各会計の予算案は、議案第10号から第17号であり、関連する議案は、第19号であります。

※各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会において説明します。

6 むすび

今年で市制施行75周年を迎える本市は、明治末期に豊富な水資源や森林資源を背景として製紙工場が立地し、産業都市の基礎を形成しながら、大規模内陸掘込港の建設や新千歳空港の発展とともに成長を続けてきました。

先人から受け継いだ本市が持つ強みを最大限に生かしながら、あらゆる変化に柔軟かつ的確に対応し、次代を切り拓いていくことで、人口減少下においても、持続可能なまちとして、さらに飛躍することができると確信しております。

私は、市民の皆様の安全・安心を第一に、財政秩序を守りつつ、財政基盤の更なる強化を図り、20年先を見据えたまちづくりの実践にチャレンジする強い決意を持って令和5年度の市政運営を進めてまいります。